

<作成の趣旨>KTFとは、本校の校訓「輝く・つながる・ふみ出す」のアルファベットの頭文字です。広報誌「KTF」は、病弱・身体虚弱の子供たちへの支援の充実を図ることを目的として作成しています。学校や家庭等が、日々の実践を進める上で直面する、制度や情報等に関する疑問や質問を想定し、それに答える形で発信しますので、ご活用ください♪

第7回「病弱教育における自立活動の工夫」について

Q、病弱教育における自立活動は、どのように指導するといいの？



A. ポイントは、**不調期・安定期・移行期と、時期を分けて考えること**です。病気の子ども**の状況は、いつも同じではなく、治療の状況等によっても変わってきます。**また、病気の多様化に対応していくためには、**病気の種類別や程度別も参考に**する必要****があります。そこを把握して、**適宜適切な指導**を行うことが、病弱教育に携わる支援者に求められる力になります。



ここでは、慢性疾患のある子どもにとって、必要と考えられる主な具体的な指導内容を「**心理的な安定**」の区分を例として示します。

- 1) 病気の状態や入院等の環境に基づく**心理的不適応の改善**
カウンセリング的活動や場所・場面の変化による不安の軽減、安心して参加できる集団構成の工夫
- 2) 諸活動による**情緒の安定**
各種の音楽的・造形的・創作的・体育的活動等による情緒不安定の改善
- 3) 病気の状態等を克服する**意欲の向上**
持続的作業による積極性・忍耐力・集中力の向上及び成就感の体得や自信の獲得



自立活動の指導に当たっては、

- ① **児童生徒の学習上又は生活上の困難さはどこにあるのかを把握**すること。
- ② **医学的な立場から情報提供を受けたり、外部専門家から助言を得たりするなど、他機関との連携を図ること**、が大切です。

児童生徒の病気の多様化に対応するためには、それぞれの病気を正しく理解し、指導内容を明確にすると共に、一人一人の心身の状態に応じた適切な自立活動の指導を行えることが、病弱教育担当者の専門性として求められています。児童生徒が、その状況に応じて自分の行動を調整したり、自ら生活環境に働きかけたりして、より過ごしやすい環境を整える力が身に付くように、支援していきましょうね！

☆参考資料：「特別支援教育の基礎基本2020」（ジアース教育新社）・「病気の子どもための教育必携」（ジアース教育新社）等を是非ご覧ください。

